

モーリシャス豆知識・小話 第17号

2018年9月

在モーリシャス日本国大使館

(1) モーリシャス人のおおらかさ

もう10月。私事で恐縮ですが、前任地でモーリシャス勤務を言い渡されたのがちょうど2年前の10月でした。大昔に一度だけ出張に来たことがあったのですが、それ以来モーリシャスのモノ字も意識することなく生きてきたので赴任したての頃は驚きの連続でした。しかし、そのときも今も変わらないモーリシャス人の印象は、おおらかさ。

確かにこれが悪い方向に向かうと、いい加減、ルーズ、ということになるのでしょうか、それを補ってあまりある魅力がそこにはあると思います。そもそも当地に来て、お店で道端で、あるいはオフィスで、激高したりイラついている人をついぞ見たことがありません。日本人並みにきれいな行列を作るわけではないですが、どんなに混んでいようが、順番待ちが長かろうが、多くは表情を変えることなく佇んでいます。

そういえば車を運転しているときも、ラウンドアバウトで直進と右折のレーンはわりとよく守られていますね。フランスなどだったら、右折する車でも空いている直進レーンをバーツと走ってきて最後に割り込みする輩が多いですが、ここはどんなに列が長かろうが、愚直に同じレーンに並んでいます。(もちろんたまに割り込んでくる輩もいますが・・・) 気の長い人が多いのかな。

おおらかさにもきつと限度があるのでしょうか、以前インド系の結婚式に招かれて会場に行ったとき、招待状の花婿の名前と式場のボードに掲げられていた花婿の名前が違ったときは笑いました。あまり細かいことを気にしないのはいいことだけど、これはまずいでしょ(笑)。

でも、そうした気のよい人たちに見守られて当館も開館からここまでやってこれたのも確かなことです。今後もこうしたチャーミングな気質はなくしてほしくないな、この先何年経とうと、自分の初めての印象がこれからも変わらずにいてほしいなど、2周年を記録する自分のモーリシャス滞在を振り返って感じたことでした。



(2) 日本とモーリシャスの絆

9月には当国で初のジャパン・スタディ・ウィーク「教えて！日本～Tell me! Japan～」をモーリシャス大学と日本人の先生方4名の献身的なご協力で開催したわけですが、モーリシャス人のみならず、当館、というか私自身にとっても大変勉強になったイベントでした。



都倉准教授の講義

例えば慶応大学の都倉先生の講義されたモーリシャスと日本の隠れた交流の歴史。積み重ねられた人の交流がいろいろあったのですね。お互いこーんなに離れているし、今でさえ当地で日本人初めて見た、という人も多いので、タカを括っていた自分の認識不足が恥ずかしい。

そして実際、身近にまさにそれを体現している方もおられました。今回ご協力いただいたモーリシャス大学のティーロック先生は、既に亡くなられたお母様がなんと神戸生まれ。よく聞くとそのお母様の父親があのインドの英雄チャンドラ・ボースの側近だったそうです。ボースの亡命先の日本で育ったお母様がモーリシャス人に嫁いで当地に来て、生まれたのがティーロック先生とのこと。お母様は日本語ネイティブ、先生からは日本で生活されていた当時の写真もを見せていただきましたが、着物姿のインド人姉妹のかわいいスナップショッ

トもありました。当時使っていた教科書なども大事にとっておられて、私もそれを手にした瞬間、歴史と人間の織りなす不思議な感覚にとらわれた次第です。

また、今回来ていただいた長崎大学の増田先生には、日本の少子高齢化問題を論じていただいたのですが、それはそのままそっくり今のモーリシャスにも当てはまることをあらためて認識しました。両国は単に島国で資源がないということだけが共通項ではない、社会が抱えている解決すべき課題も共有しているのだということです。

こうした、両国間の絆が深まるようなイベントを今後も続けられればよいなと感じた数日間でした。